

法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催

第７０回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

**本当の鬼退治をするために**

京都府・舞鶴市立加佐中学校・三年・江口　魁音

僕たちは身の回りで起こる出来事を､一方的な視点からばかり見ているということはないでしょうか。

　僕は昨年､道徳の時間に「桃太郎の鬼退治」という教材に出会いました。昔話の桃太郎は鬼をたおして村人を救ったヒーローですが､この教材には､「めでたし､めでたし。」の続きに､「ボクのおとうさんは､桃太郎というやつに殺されました。」という一言が加えられており､その鬼の子どもの言葉から考えを深めるというものでした。ぼくは､この鬼の子どもの一言に､とても大きく心を揺さぶられました。

　ぼくはこの鬼の子どもの言葉を読むまで､鬼と言えば怖いイメージがあったので「鬼は悪党。」桃太郎は鬼から村人を救ったとても素晴らしい人物で「桃太郎はヒーロー」という固定観念がありました。僕は桃太郎を支持し､鬼を悪者と思い込んでいました。でも､確かに鬼は､桃太郎によって殺されたのです。このことにより､最初は加害者だった鬼は､ある意味被害者になってしまっているのです。鬼の子どもの言葉には､その悲しみが込められていることにはっと気づかされました。

　こういったことは､昔話の中だけでなく､現代社会でも起こっています。

　例えば､第二次世界大戦中の一九四五年八月六日・九日に原子爆弾､通称「原爆」が広島と長崎に投下されました。これによって日本は大打撃を受けました。一瞬にして多くの人が亡くなり､その悲惨さに､「原爆」への許しがたい想いを多くの日本人は持っています。

　しかし､原爆を投下した､戦勝国のアメリカでは「原爆投下のおかげで戦争終結が早まった。」や､「原爆のおかげで多くの米国人の命が救われた。」といった､原爆投下を支持する意見も多いという世論調査の結果があります。世界では､まだまだ原爆を支持したり､核兵器はとても強い爆弾で､必要な物というイメージを持ったりしている人もいるようです。これは桃太郎の物語でいう「鬼（日本）」を退治した「桃太郎（アメリカ）」からの見かたです。

　また､最近の例では､世の中で話題になるような事件や問題が起きたときの､インターネットのＳＮＳでのトラブルです。世間が事件や問題を起こした人間を「悪」とみなし､一斉にその人物に悪意ある発言で攻撃することがあります。これをネット用語では「たたく」といいます。みんなが「たたく」から自分もその輪に入ってとりあえず「たたく」など周りに合わせている人間がたくさんいるのだと思います。周りに流され､自分の見方を失っているのでしょうか。

　事件や問題を起こした人間は世間にひどく「たたかれる」ことによって､精神的に追いこまれて､自殺してしまうケースもあります。事件や問題を起こした人間は被害者となり､「正義だ」と思って「たたく」ことをしていた人間はたちまち加害者となっています。これでは「めでたし。めでたし。」ではなく､新たな悲劇が起こっているだけです。

　問題や事件、まして犯罪などは、決して許してはならないことだと思います。しかし、それをしてしまった人を「悪」と決めつけてその人を攻撃するのが「正義」とする一方的な視点からだけで物事をとらえ、周りのみんなと一緒になってＳＮＳなどでその人を誹謗中傷することは、同じく許されないことだと思います。

　本当の「めでたし。めでたし。」にするためには、事件や問題を起こしてしまった人は、二度と繰り返さないようにしっかりと反省すること。そして、周りの人たちはその人を「たたく」ことで退治するのではなく、しっかりと反省できる環境づくりをすることが大切だと思います。「罪を憎んで人を憎まず」です。

　憎む心ではなく、人を思いやり支える心が本当の鬼退治につながり、明るい社会につながるのではないでしょうか。